

## ハンドアウト

### 《前回の復習》

- ① 記述答案で最も大切なこと。

**Ans.** 答案の自立性

- ② 答案の自立性とは？

**Ans.** 本文を読んでいない人に自分の答案が伝わるだろうか。本文を読んだ人にしか伝わらない答案は、採点官との共通理解に甘えた答案であり、説明不足と言える。

- ③ 答案の自立性のチェックポイント

**Ans.**

- {

(1) 指示語がそのままになっていないか。

(2) 抽象的な語が説明されないままになっていないか。

(3) 比喩表現がそのままになっていないか。

(4) 筆者特有の言い方がそのままになっていないか（括弧でくくってあったりする語）。

※以上を説明することを、本講義では「具体化」と呼ぶことにする。

- ④ 下線部説明問題のタイプは？

**Ans.**

- 下線部説明の問題は

{

(1) 下線部の前

(2) 下線部の後

(3) (1) と (2) の混合

(4) 自分言葉で説明、の 4 タイプ。

- ⑤ 下線部説明問題の定石は？

- Ans.**

{

(1) 構文（答案と下線部をそろえる）

(2) 分析（何を説明すべきか）

(3) 具体化（答案として独立するまで説明する）

(4) 代入

### 《設問一》

- ⑥ 「生きている日本人は」

**Ans.** 「日本人」は日本人でいいだろう。「生きている」は「死んだ日本人」、つまり「死者の霊」との対比で用いられている表現。その対比が答案全体として表現できていればよいので、「生きている」をわざわざ説明する必要はないだろう。

⑦ 「生きているというだけで」

**Ans.** 直接説明するのは難しい。そう言う場合はどうするべきだったか、思いだしてほしい。直接の説明が難しければ、対比を使えばよい。

⑧ 「…というだけで」のニュアンス

**Ans.** まず、この表現のニュアンスを具体例で捉えてみよう。

例：「彼らは日本人というだけで差別された」「彼女は美人というだけで優遇されていた」

これらの具体例を見て分かるように、「何もしていないのに、…であるということのみによって」というニュアンスであることが分かる。

ここから、「生きているというだけで」は「何も（悪いことは）していないのに」というニュアンスになるであろうと推測できる。あとは、具体化すればよい。

また、9行目の「のである文」に着目すれば、「つねに無意識のうちに気にしている」という表現も参考になる。

⑨ 対比による説明

**Ans.** まず、4行目にあるディスコースマーカー「それだけでなく」not only A but also B に着目してほしい。

中身を見てみると、Aの部分は「誰かを殺してしまったことを後悔したり、そのせいで呪われるのではないかと恐れたりする」ことを指していて、Bの部分は、「自分たちのために死んでいった人たちへの後ろめたさ」が述べられている。

これを一般化すれば、日本人は「怨霊」だけでなく「犠牲者」にも「祟り」の信仰を抱いてきたとなろう。そして、後者の感情が「生きているだけで」に対応するのである。

あとは、これをうまく利用して「生きているだけで」を説明すればよい。これは「犠牲者」への「祟り」の信仰の方であるから、「怨霊」ではないのに、という説明の仕方でも、補足的に説明できるだろう。

要は、「怨霊」、つまり「誰かを殺してしまって恨まれる」というのではなくても、というのが「犠牲者」の間接的な対比説明となる。これを分かりやすく言うと、「人を殺したわけでもないのに、特別悪事を働いたわけでもないのに」ということである。

あとは「生きている」というニュアンスを足せばベスト。「彼らのおかげで自分たちは生き延びることができた、それが申し訳ない」「自分だけが生き延びてしまっていること自体が申し訳ない」、ということだろう。

この対比が押さえられれば、36行目の「生き残って申し訳ないという思い」という表現も参考になることが分かるだろう。ここも「のである」文。

⑩ 「霊に対して弱い立場に置かれていたのである」

**Ans.** 傍線部冒頭の「言い換えれば」に着目すれば、「弱い立場」は「後ろめたさ」や「負い目」と具体的に言い換えられていることに気がつくはず。

⑪ まとめ

**Ans.** 「言い換えれば」のディスコースマーカーに着目した比喩説明、not only A but also B のディスコースマーカーに着目した対比の説明がポイントであった。

**解答** 日本人は死者の霊に対して、自分のせいで亡くなったわけではなくても、自分たちだけが生き延びてしまって申し訳ないという、後ろめたさや負い目の感情を無意識に抱いてきたということ。(89字) (矢野)

**解答** 殺人を犯した訳でもないのに、日本人は今生きている自分の一方で存在する死者の霊をいつも気に掛け、後ろめたさや負い目を感じ続けていたということ。(70字) (鉄緑会)

**解答**

解答

解答

## 《設問二》

### 12 「慰霊団の現地での慰霊行動は」

**Ans.** 直前までの具体例を踏まえて具体化する。正確に言う「遺骨収集を含めて戦死者の霊を慰め鎮める行為」となる。ざっくりまとめて「遺骨収集（という行為）」くらいでも、答案の自立性は満たしていよう。

### 13 「私には」

**Ans.** 「私」は、「日本人の私」であることに注意。「には」という言い方に「対比」が含意されている。以下の具体化からもこの点は明らかとなる。

### 14 「十分に理解できるものである」

**Ans.** ここでの「理解」は、知的・合理的な理解というより、「感情的な共感」を表している。ニュアンスとしては、「共感できる」ということ。

また、4 段落と 5 段落では、「慰霊団の慰霊行為」が「異様に映る」アメリカ人や現地人との対比で説明されていることに注意したい。

異文化の人：21 行目「異様なもの」「不思議なもの」、27 行目「異様に映るらしいのだ」、31 行目「奇妙な感じを抱くのは当然のことであろう」

vs

日本人：23 行目「日本人の私には胸にジーンとくるものがある」、26 行目「日本人ならば少しも奇妙な振る舞いではない」、

### 15 理解できる理由

**Ans.** 4 段落は「理解できる」の具体化が来ていて、理由は述べられていない。

「十分に理解できるものである」は、26 行目の「日本人ならば少しも奇妙な振る舞いではないのである」、31 行目の「当然のことであろう」と言い換えられていることから、ここを含む文「日本文化のコンテキストに位置づけて解釈できない異文化の人」が、理由を表す箇所だと分かる。これを逆に言い換えればよいので、「日本文化のコンテキストに位置づけて解釈できる日本文化に属する人」となる。

あとは、「日本文化のコンテキスト」と「位置づけて解釈」を具体的に説明するだけ。

### 16 日本文化のコンテキスト

**Ans.** 前者は 32 行目の「日本人の霊への信仰の特徴」や 39 行目の「私達はここに脈々と流れる日本人の民族的な信仰伝統を見いだす」などが利用できる。

要は、「遺骨収拾＝（伝統的な）霊への信仰」とイコールで結べる、両者が伝統としてつながっている、そう理解できるということである。

### 17 位置づけて解釈

**Ans.** 語句説明の問題。要は「日本文化という文脈の中で捉える」ということ。よって、「日本文化のコンテキストに位置づけて解釈する」とは、「遺骨収集という行為が、伝統的な日本人の霊への信仰と地続きの行為として考えられる、ということ。遺骨収集という行為が伝統的な信仰の一種して理解できる、ということ。

18 コンテキスト

Ans. 「文脈」

19 例

Ans. 言葉の意味はコンテキストで決まる。「あいつの授業はゴミだな」。

20 まとめ

Ans. 「昔からやっていることだから、普通のことじゃん、別に変なことじゃないよ～、すげえわかるわ～」を、具体化するだけ。

解答

遺骨収集を含めて戦死者の霊を慰め鎮める行為は、霊に対する日本人の民俗的信仰を背景としており、その文化のもとに育った筆者の共感できるものだから。(71 字) (鉄緑会)

解答

解答

解答

## 《設問三》

21 「この年老いた元日本海軍の兵士たちの」

Ans. 戦争で生き残った兵士のことを指す。元兵士たち、などとまとめる。

22 「戦争によって…止まってしまった」

Ans. 「人生の時間が止まる」という比喻は、「人生がそこから動かなくなる」こと、つまり、「ある時点から人生が進まなくなる」ということ。言い換えれば、「人生が同じ状態のまま継続している」ということ。

以上を踏まえつつ、傍線部直後の「意識し続ける人生」という表現に着目すれば、要は「ずっと…し続けているということ」というように「継続」を表す言い方を用いればよいことが分かるだろう。

では、何が継続しているのか？

23 「人生の時間の、ある部分が止まってしまった」

Ans. 傍線部を含む文の冒頭の「ある意味では」に着目すれば、「思い」を指すことが分かる。この「思い」を戦争中に抱き、その感情を終始忘れることができなかったということであろう。

後は、「思い」を具体化するだけ。36 から 37 行目の、「物言わぬ…生き残って申し訳ないという『思い』を、うまくまとめればよい。

なお、構文としては「思い続ける」でよいが、「思いを忘れることができなかった」「思いに囚われ続けた」「思いに縛られ続けた」などと、表現を工夫すると、より傍線部のニュアンスを表したよい答案となるだろう。

24 「ある部分」について

Ans. 戦争が終わって何十年も経っているのだから、もちろん人生は流れ、生活は続いていく。しかしメンタルの部分で、どうしても忘れることができない、陰にも陽にも人生に影響を与え続けている、そんな感情を抱き続けている心の奥底のことを、「ある部分」と表現している。

25 そして

**Ans.** 傍線部直後の「そして」という追加のディスコースマーカーに着目する。

「そして、その後の人生はこの「霊の目」を安らかにすることを意識し続ける人生であったのだろう。」

とあるので、「ある部分」には「死んだ兵士の霊を鎮めたい」という気持ちは含まれない。「その後」に着目すれば、「後ろめたさを感じ続けた」から、「その後霊を鎮めたい」という因果関係があることが分かる。よって、「慰霊行為を継続した」というのは誤答である。

解答

元兵士たちは戦死者に対して、自分たちだけが生き残ってしまったことへの後ろめたさを、終始忘れることができなかったということ。(61 字) (矢野)

解答

慰霊行為を行う元兵士たちは、戦死者への負い目や生き残りを申し訳なく感じる意識が、過去の戦争の時点から同じ状態で継続していたということ。(67 字) (鉄緑会)

解答

解答

解答

## 《設問四》

26 「疑似」

**Ans.** 「疑似」とは「本物と区別がつきにくいほど似通っていること(新明解)」。

この文脈では、宗教的行事と非常に似ているが、本来の宗教的行事ではない、ということ。「疑似」のニュアンスを出すためには、「すぎない」「よそおう」「作り上げたもの」などといった言葉が適している。また「疑似」ということは「偽」ということだから、その作為性を説明しなければならない。最近できたものだ、という説明だけでは「疑似」の説明とはならない。新旧が問題ではない。

実は、39 行目の「昔からの習俗であったかのような印象を与えるかもしれない」が最大のヒントになる。「印象を与えるが、実は違う」というのが「疑似」の意味。

27 例

**Ans.** ルアー、疑似恋愛。

28 「広く民衆の間に定着したのは日中戦争開始以降のことである」

**Ans.** 「日本古来からある伝統的な行事ではない」「近代以前には存在しなかった」という点がポイント。

29 「これは民俗の信仰を変形させて作り出した、近代の軍国主義国家の創造物であった」

**Ans.** 元々ある伝統的な行為を変形させてでっち上げた、ということ。

「元々ある者を変形させて」という点が「疑似」と言えるためのポイント。なぜなら、「これまでに無く新しい」からというだけでは「疑似」の意味にはならないからである。「本来の宗教的行為」と「遺骨収集を対比させて」説明すべきである。新旧が問題なのではなく、インチキが問題なのである。解答としては「古来からある儀礼行為を変形させて作ったでっちあげ(上の解答)」とするか、「古来の民族的信仰に似てはいるものの…違う」とするか、どちらでもよい。本来の宗教的行為はこうだ、という記述がないので、後者はやや書きにくいかもしれない。

**解答** 遺骨収集は古来からある儀礼的行為であるかのような印象を与えるが、実は近代の軍国主義国家が、日本人の民族的信仰を変形して創り上げたものに過ぎないから。(74 字) (矢野)

**解答** 遺骨収集は日本人の民俗的信仰としての慰霊に似るものの、実体はその信仰を変形して作った、軍国主義的・国家主義的意図を持つ儀礼行為でしかないから。(71 字) (鉄緑会)

**解答**

**解答**

**解答**

## 《設問五》

### 30 構文

**Ans.** 遺骨収集（という儀礼行為）は…だから。主語を押さえる。また、直後の「のだ」文に着目すれば、傍線部は直後の文で具体的に説明されていることにも注意せよ。

### 31 狙い

**Ans.** まず、問題の狙いを押さえよう。「あったと見るべきだろう」という推測に対して、「なぜそのように言えるのか」と聞いている訳だから、この問題の狙いは、「民衆も遺骨収集を求めていたと言える根拠は何か答えよ」ということである。

民衆の心の働きは目に見えないわけだから、遺骨収集をしたいと彼らが思っていたその根拠を求めているわけである。

### 32 分析

**Ans.** その骨を依り代にして帰国する霊を迎えたいという「思い」は、「国家だけではなく」、「民衆のなかにもあったとみるべきであろう」

### 33 その骨を依り代にして帰国する霊を迎えたいという「思い」

**Ans.** これはつまり、「遺骨収集（という儀礼行為）を求めていたこと」とまとめられるだろう  
「依り代（よりしろ）」とは、「神霊が現れる時の媒体となるもの。（樹木が、最も代表的）」という意味（『新明解国語辞典』）

### 34 「国家だけではなく」

**Ans.** 「政治的に利用しようという政治家や一部の戦没者遺族たちの思惑」によって儀礼行為が行われていた。しかしそれだけでなく…。。

要は、「遺骨収集」という行為が、「政治家は政治利用しようという思惑として、民衆は…したいという思いとして、意図は違えど、儀礼行為として求められて、戦後も継続された」ということ。コインの表裏。一方にはこう映り、他方にはこう映る。

35 「民衆のなかにもあったとみるべきであろう」

**Ans.** 50 行目の「しかし」というディスコースマーカーに着目する。

「しかし」の直前で「簡単に消滅しても不思議ではなかった」とあるから、「遺骨収集」という行為が、「消滅せず民衆の文化として残り続けた」ということは、「民衆の中にもあったとみるべきだろう」という推測の根拠の一つとなる（外的なエビデンス）。

また、「しかし」の直後で

「この遺骨収集の儀礼的行為は、わずか二十年足らずの間に日本人の心性の奥に入り込み、国家主義的儀礼の域を越えて国民的・民衆的な文化に変質しつつあったのである。いや、民衆の宗教心が戦前の国家が作り出した儀礼行為を自分たちの信仰に組み込んでしまったといった方がわかりやすいかもしれない」

とあるように、「遺骨収集の儀礼的行為」が定着したプロセスと事実が述べられているので、このあたりもヒントになる。

あとは、なぜ定着したのか、その理由を明示すればよい（内的エビデンス、民衆の心のあり方の推測）。「…だから民衆の中に残り続けたから、民衆も遺骨収集を求めているのではないか」という推論である。

その理由は、傍線部直後にズバリある。「その心性は、近代国家という枠組みの成立以前から存在していた、「霊の目」を意識した「後ろめたさ」に由来するものであったのだ。」である。

遺骨収集という行為が、日本人の伝統としてある民俗宗教と融和的だったということである。そして、これは、この文章全体のまとめとなる。冒頭の段落を思い出してみよう。日本人の民俗宗教のあり方についてのコンパクトなまとめがあるはずである。

要するに、遺骨収集という儀礼行為は、政府の思惑を超え、たまたまではあるが、死者に対して生者が抱いていた後ろめたさを慰めたいという願望のはけ口になった、ということ。

36 まとめ

**Ans.** 「遺骨収集」という儀礼行為が、たまたま民俗宗教と合致したということ。「遺骨収集」は、政治利用されごく最近に作り出された疑似宗教的な行為なのに、日本古来の民俗宗教と融和的であったため、それとは独立に、民衆に受け入れられ、未だに残存している、というのが本文の趣旨。そして、これをまとめたものが設問（五）の答えになっているはずである。

解答

戦後の遺骨収集にも、戦前に見られるような政治的意図は確かに存在する。しかし霊に対する従来の民俗的な信仰伝統が根強かったからこそ、遺骨収集は政治的思惑とは無関係に、戦時中の僅かな期間で民衆の宗教心に合致して組み込まれていたものでもあったから。（120 字）  
（鉄緑会）

解答

解答

解答